

織豊期主要人物 居所集成 [第2版]

藤井讓治 編

▶B5判・476頁／定価：本体6,800円（税別） ISBN978-4-7842-1833-2

2016年1月刊行予定

- ・第2版の刊行にあたり、初版の誤植訂正はもちろん、一部の日付を確定・訂正した。
- ・特に豊臣秀吉については従来の関係文書編年に誤りがあったため、大幅に訂正した。
- ・第2版での訂正箇所は、小社HPに掲載いたします。

▶裏面に組み見本掲載

◆ 内容目次 ◆

織田信長の居所と行動 堀 新
(共立女子大学文芸学部教授)

豊臣秀吉の居所と行動（天正10年6月2日以前）堀 新

豊臣秀吉の居所と行動（天正10年6月以降）藤井讓治
(京都大学名誉教授)

豊臣秀次の居所と行動 藤田恒春

徳川家康の居所と行動（天正10年6月以降）相田文三
(虎屋文庫研究主任)

足利義昭の居所と行動 早島大祐
(京都女子大学文学部准教授)

柴田勝家の居所と行動 尾下成敏
(京都橘大学文学部准教授)

丹羽長秀の居所と行動 尾下成敏

明智光秀の居所と行動 早島大祐

細川藤孝の居所と行動 早島大祐

前田利家の居所と行動 尾下成敏

毛利輝元の居所と行動（慶長5年9月14日以前）
中野 等(九州大学大学院比較社会文化研究院教授)

毛利輝元の居所と行動（慶長5年9月15日以降）
穴井綾香(久留米市市民文化財保護課主任主事)

小早川隆景の居所と行動 中野 等

上杉景勝の居所と行動 尾下成敏

伊達政宗の居所と行動 福田千鶴
(九州大学大学院人文科学府教授)

石田三成の居所と行動 中野 等

浅野長政の居所と行動 相田文三

福島正則の居所と行動 穴井綾香

片桐且元の居所と行動 藤田恒春

近衛前久の居所と行動 松澤克行
(東京大学史料編纂所准教授)

近衛信尹の居所と行動 松澤克行

西笑承兌の居所と行動 杉田善雄
(大手前大学総合文化学部教授)

大政所の居所と行動 藤田恒春

北政所(高臺院)の居所と行動 藤田恒春

浅井茶々の居所と行動 福田千鶴

孝蔵主の居所と行動 藤田恒春

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	織豊期主要人物居所集成 [第2版] 本体6,800円(税別) ISBN978-4-7842-1833-2	
お名前		tel	本書HPのQRコード
		e-mail	
ご住所	〒		
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎		

織豊期を生きた政治的主要人物の 移りゆく居所の情報を編年でまとめた研究者必携の書！！

- ・居所の確定は、従来個々の研究者が、特定の人物、特定の時期に限って行ってきたため不完全であり、公にされることもきわめて少なかった。本書は、多くの研究者が複数の人物を取り上げ、居所情報を複眼的に確定した成果。
- ・各章は「略歴」と「居所と行動」で構成され、現在知りうる限りの居所情報を編年で掲載。

9月には一応の完成をみたようである。

この他、天正11年の駿ヶ岳の戦い後に坂本城を手にし、しばしばそこを訪れた。また同15年には、坂本城を築し大津城を築いている。

【居所と行動】

天正10年(1582) 6月～12月

【概要】

秀吉は、本能寺の変が起こった天正10年6月2日には備中高松に在陣し、5日高松を発ち、7日に姫路着、9日姫路を発ち、13日山崎で明智光秀を滅ぼし、同日京都、翌日は近江、その後美濃・尾張へ出陣、6月27日清洲会議。7月9日京都着。その後山崎山崎を拠点とし、京都・山崎間を行き来するほか、姫路・丹波亀山に出かけている。12月7日、美濃に向けて出陣、同月28日に京都に帰陣。

【詳細】

6月4日備中高松に在陣(「前代」)。5日高松に在陣(9月20日付下田愛秀宛書状「高松守申越江(中略)同月五拾日陣仕(中略)同月七拾日姫路之城へ入内、同九月より京都へ切上、十二日二城州於山崎表及一戦(秋田版文書)」。5日野殿を経て沼津(5日付中川清秀宛書状「向々の院道行入候之船状被見申候今日成次第ぬま迄通申候(尾林寺文書)」。6日姫路着(8日付松井友閑宛書状「昨九日大光明寺令参(中略)夜中二兵卒まで着陣候間姫路迄行出候事(尾野田之氏所載文書)」)。10日淡路岩屋へ渡海を頼むが渡海せず(9日付広田内蔵監宛書状「向本城へ首平右衛門入城之由迄速候間只今則至大光明寺令参候間日越後城城取可貴下候(広田文書)」。9日付安宅徳庵宛書状「我々明日を以て知可令渡海候様へハ、恩恵同様に候事(中略)」。11日尾崎着(18日付松井友閑宛書状「昨九日京都に在陣(中略)」。12日富田着(前掲18日付松井友閑宛書状「同十二日二城州(中略)富田一役衆相懸申候事」)。14日付川口石右衛門外1名宛書状「同十二日二城州に在陣松井友閑宛書状(中略)」。13日山崎の戦い(前掲18日付松井友閑宛書状「其十三日之戦二山崎に衆取申候事」。同日京都着(「経路」羽柴筑前守徳庵宛書状「本國寺二城州了」)。14日三井寺在(「東見」羽柴筑前守(中略)今日三井寺陣所候」。18日近江在陣(「東見」)。23日この美濃在(同日付美濃立攻寺宛書状「立攻寺文書)」。27日清洲に(清洲会議)。28日津浦、石なて、早尾を通り長浜に帰陣(28日付松井友閑宛書状「美濃明細候事今日津浦をとり渡二ハ石なては尾三令着陣それより長浜居候様(高木文書)」。7月3日「4日長浜在(「東見」4日付松井友閑宛書状「美濃明細候様(小川文書)」。9日京都着(11日付松井友閑宛書状「昨日九日付上洛近江至津州姫路可居候様(鍋島文書)」。ただし「東見」に於京都羽柴筑前守統制統制之説、以寺門可有御書信旨。【参院院】8日東「今日城取致子三

豊臣秀吉の居所と行動(天正10年6月以降)

藤井 譲治

【略歴】

秀吉は、天文5年(1536)あるいは天文6年2月6日、尾張愛智郡中村に生まれたとされる。生年については、桑田忠親氏が、天正18年(1590)12月吉日の石通白杉本坊宛伊藤秀盛の願文に「関白様 西之御年 御年五十四歳」とあることから天文6年とされるが、北野社に慶長2年(1592)3月1日に奉納された釣燈籠の銘には「御歳^四為御祈禱也」とあり、天文5年の可能性もある。

信長に仕え、永祿8年(1566)以前に木下藤吉郎秀吉を名乗り、天正元年7月ころ信長から羽柴の姓を与えられる。天正3年には筑前守を名乗るが、朝廷からの諸大夫叙任がなされたものではないようである。

残された口宣案によれば、天正10年10月3日従五位左近衛権少将、11年5月22日従四位下参議に叙任されているが、天正12年11月21日従三位大納言にあたって通り叙任されたものであり、朝廷の実質的地位は、大納言叙任が最初である。ついで天正13年3月10日従二位内大臣、7月11日従一位関白に叙任された。天正14年12月19日太政大臣任官にさいし「豊臣」姓を朝廷から与えられる。

天正19年12月25日に、関白職を秀次に譲り(「公卿補任」は秀次の関白任官を12月28日とする)、以降「太閤」を通称とし、慶長3年8月18日に伏見城で死去する。

山崎の戦いの後、山崎に城を築き畿内の拠点とするが、天正11年5月には、池田恒興より大坂を譲取り本拠とし、そこに城郭を築いた。天正14年2月に京都内野に城郭を築くため縄張りを行い、それを聚楽と名付け、翌年9月13日に移住し、本城とした。関白を秀次に譲るにあたって、聚楽を秀次に渡し、みづからの居所を再び大坂城に定める。天正20年(1592)8月ころ伏見指月に隠居所として縄張りがなされ、翌年閏9月に移住。ついで、秀頼の誕生を機に拡張工事がなされ、文禄5年(1596)には完成をみるが、同年閏7月13日の大地震で、ことごとく倒壊した。地震後、城地を伏見木幡山に移し再建に取りかかり、翌慶長2年5月に秀頼とともに移住した。また、同年4月に禁裏の東南に新城が計画され、

- ・ 政権の中心人物、政権中枢の人物、有力大名、有力武将、僧侶・文化人、公家、政権に関わる女性たち、総勢25名を収録。
- ・ 辞書的な利用はもちろん、通覧すれば秀吉の天下統一の道程や戦国武将の動静、同時代人たちの交流を詳細に追える。

(組み見本は約60%縮小)

天正10年6月2日 本能寺の変 武将たちの居所

◆織田信長——京都

未刻とも(別本兼見)、申刻ともいう(「東見」)。6月1日諸家の饗礼を受け(「東見」別本兼見「豆粒」、勅使を迎える(「東見」)。2日未明、本能寺で明智光秀の襲撃を受け自害する(「略見」「東見」別本兼見「豆粒」ほか)。

◆豊臣秀吉——備中高松

5月8日備中高松城を包囲する(5月19日付清江大炊允宛羽柴秀吉書状「去八日、同備中内高松守申越江(前掲江文書)」。9日高松城を包囲中(同日付村上元吉・武吉宛毛利輝元書状「備中境事、予今羽柴令居陣候(村上文書)」。そして6月2日の本能寺の変まで備中高松城を包囲する。

◆徳川家康——堺

6月2日堺→宇治田原、3日宇治田原→山田→朝宮→小川、4日小川→向山→丸柱→石川→河合→榑植→美伏兎→関→龜山→庄野→石薬師→四日市→郡古(「石川忠経書状」「家康織島」)。同日大浜着(「家康」)。5日・13日岡崎に(「家康」)。14日岡崎→鳴津(同日付村氏

◆柴田勝家——魚津

が、勝家は守備を堅固にして、景勝を寄せ付けなかった。5月26日、景勝や松倉城に籠もる上杉勢が越後へ退いたことで、魚津城は孤立する。そして同城は勝家ら織田勢の手に落ちた。6月3日の出来事である(以上「富山・近世」上巻21「公記」)。

◆細川藤孝——宮津

月12日には再度上洛し安土へ向かっている(「東見」)。19日に実母船橋氏死去(「略考」)。6月2日の本能寺の変のさいは百津へ帰国していたらしく、変の一報は代理として信長の迎えに出ていた米田求政からもたらされた(「略考」)。この時刻髪して幽斎と号す。

◆丹羽長秀——堺 or 大坂城

本能寺の変当日、長秀が上方にいたことは確かとみられるが、それが堺か大坂城かは不明とせざるを得ない。秀吉が大村由己に記させた「惟任退治記」によれば、この日、長秀は堺に在陣している。一方、1582年(天正10)11月5日付の1582年度日本報追信の記事、す